



# ご報告



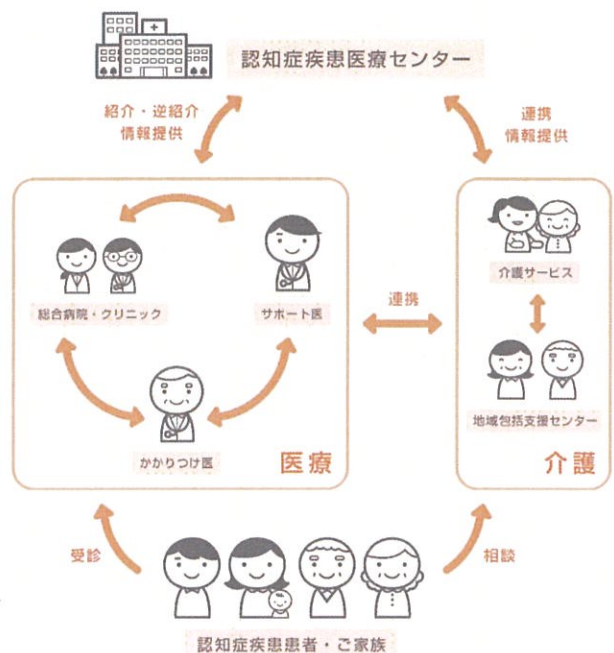
## 基幹型認知症疾患医療センターの取り組み

基幹型認知症疾患医療センター 副センター長 ながはま みちはる  
長濱 道治

高齢化社会に伴い、認知症の患者数が増加の一途をたどっています。その中で、アルツハイマー型認知症は、認知症の基礎疾患としてもっとも多く、50～60%を占めていると言われています。医学が発展している現代においても、アルツハイマー型認知症の薬物治療は根本的なものではなく、対症療法として抗認知症薬が使用されているのが現状です。

認知症に対する治療・ケアは、多施設・多職種との連携が重要となります。多職種で知恵を持ち寄って、『あの手この手』で関わりを積み重ねていく努力が必要となります。

基幹型認知症疾患医療センターでは、早期に診断を行うための専門的な情報の提供や、治療方針に悩む場合の対応など、地域における認知症の保健医療や介護の水準の向上を図るために、以下の事業を行います。



### ① 認知症の確定診断

かかりつけ医からの紹介による「もの忘れ外来」を通じて、専門医または担当医が診察、認知機能検査、画像検査などを参考にして鑑別診断を行い、今後の治療・ケアの方針を説明いたします。

### ② 認知症についての最新情報の提供や助言

かかりつけ医や地域医療機関を対象として、認知症の最新の診断、治療に関する相談に応じ、最新の情報を提供します。一般向けの講演会なども積極的に行い、情報・知識の普及に努めます。

### ③ 地域連携の推進

サポート医、地域包括支援センター、認知症の人と家族の会などと連携して、地域での認知症医療・介護の連携体制を推進します。そして研修会や講演会を通じて、地域保健・医療・介護の水準向上を目指します。

なお、7月15日(月・祝)に「令和元年度認知症地域医療連携会議」、8月25日(日)「令和元年度認知症研修会」を開催いたします。

詳細はHPをご覧ください。

ホームページ：<https://www.shimane-ninchi.jp/>

